

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203394		
法人名	有限会社ケアポート倉敷		
事業所名	グループホーム亀山 (桜並木)		
所在地	岡山県倉敷市亀山773-1		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203394-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 7 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜間入浴は開設当初より現在も継続しており入居者様のQOLの向上につながっている。「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を理念に、毎年目標を定め取り組んでいる。今年度は「心に余裕を持って楽しく介護をしよう」夕食後に入浴の為日中のクラブ活動、レクリエーション・運動等が活性化されている。その他その方に合わせた活動も行っている。食事に力を入れており月に4日行事食があり、地産地消で季節感を感じられるメニューになっている。職員間のコミュニケーションが取れており、定着力もよく働きやすい環境となっている。職員の研修に努め認知症ケア等のスキルアップに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太陽神である天照大御神に見守られるように、東向きと南向きに居室を設け、スケールの大きな施設を形成している。理念は、全職員が周知し、職員の礎として18年の軌跡で物語ってきたからこそ、利用者に関わり方に光を射し、職員の充実した源となり、介護福祉の姿勢に表れている。「前の人が入っているお風呂で嫌な気持ちになる」という利用者からの声から清潔を目指し、掃除に徹底し、すべての環境にも「一隅を照らす」の如く隅々まで対応している。人との関係も気配り、心配りで照らすように、施設長をリーダーとして、和を持って、オーナーが語る「継続できる体制」に導いている。家庭的な心を絆として企業化されたゆとりがあるこの施設は、「礼で始まり、礼で終わる。」その武士道の精神から、大きな笑顔を育み、継続は力なりの言葉が似合うが、その裏に目に見えない苦労の甲斐も伺われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を掲げており、全体会議などで適宜伝えている。ホーム内では「風通しの良いグループホーム」を目指しており毎年年間目標を掲げている。今年の「心に余裕を持って楽しく介護をしよう」を全職員で共有し理念の実践が出来るようにしている。	各ユニットの掲示板に理念を掲げ、実践できる様に取り組んでいる。年間の研修プログラムに接遇研修があり、各部署のリーダー的存在の人が講師役になり、職員全体で理念に沿った目標を考え、職員用トイレに掲示している。半年毎に振り返り、反省を行っている。	理念の通りに実践しているので、誰もが見える場所に大きく掲げて、今以上に地域に知って頂ける様にしていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大防止の為今までのような地域との交流は持っていないが、中庭や駐車場を散歩している。近隣の帯江小学校と手紙のやり取りを行っている。感染拡大が終息後は以前のように交流していく予定。	お気に入りの散歩コースをコロナ禍でも続けている。また、オンライン面談を推進した事で、国内はもとより、海外の家族とも気軽に面会できる環境を構築し、柔軟に対応している。小学生と手紙のやり取りも楽しい行事。法人で空手道部があり、職員が地域の子供達に教えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外部・内部での勉強会を行っている。グループ全体の便りを作成し地域の有識者へ配布している。2か月に一度近隣の清掃活動の為にクリーンアップ作戦を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、愛育委員、地域包括支援センター、家族会の参加で開催、又は書面会議を行っている。以前は全家族に開催の通知を行っていた。半年に一度はデイサービスとの合同開催なのでより広く意見を聞くことが出来る。会議資料は来訪者閲覧の為玄関に設置している。	隔月に開催し、面談と書面の形式でコロナ禍スタイルをとっている。書面スタイルを取った事で、参加メンバー同士の意見も知りたいとの意向から議事録を郵送するようになった。愛育委員が、おやつのリポーターを紹介してくれ、豊富なバリエーションとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告を毎月行っている。制度やサービスの事で解らない所や確認事項等は随時担当者に相談、確認しサービス提供を行っている。	施設長が中心となり、いつでも連絡・相談できる関係にあり、出向いて話をするくらい市と連携を深く図っている。市から研修案内などもあり、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会があり、どのようなことが拘束にあたるのか勉強会や全体会議で伝え、共通の認識でケアを行っている。勉強会の担当者は毎年変更し担当職員も深く知識を身につけている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。運営推進会議の日に委員会を開催し内容を全職員に周知している。	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催しており、職員が講師となって勉強会を実施している。ケアの現場で、これは拘束の予備軍？と思わしきときは、その場の雰囲気配慮しながら、スタッフの個性に合わせてケアの意味や意義をよく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、どのような事が虐待に当たるのか、全体会議等で伝えている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。事故の内容についても虐待にあたる事例はないか話し合いで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者はもちろん事業所内でも勉強会を開催し制度について勉強している。家族の相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書を元に詳しく説明し納得して頂き、同意を得ている。改正時にも書面と口頭にて説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書に苦情の窓口を明記し説明している。管理者のみでなく職員は面会時や家族会総会、運営推進会議、意見箱などで頂いた意見は共有し反映している。	オンラインも含めて、家族との面会や家族アンケートを続け、意見や要望を聞き取っている。利用者からは、日常生活の何気ない会話からも聞き取れるように、親しみを持って接している。コロナ禍でも初詣に行きたいとの要望に、施設内に神社と賽銭を作り、手を合わせる機会を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け全員で意見交換を行い決定している。管理者は年に一度全職員と面談し意見を聞いて反映している。その他は、代表者に報告し反映させている。	どんなことも気軽に話せるゲートキーパー役が役割に関係なくいて、職員同士、風通しが良い。コロナ応援プロジェクトとして、地元企業の取引を広げ、弁当やパンを職員の食事にイレギュラーに提供したり、職員同士で好意的に勤務を調整したりして休みやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力や働きやすい環境を配慮している。本人の能力が引き出せるように配慮している。心身の状況を把握し個々に合った就業環境で就業している。就業規則に沿って表彰制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を利用し職員の昇格等モチベーションアップにつなげている。新人に対してプリセプター制度を利用し実際のケアの中で指導を行っている。種類別や役職別に全職員が定期的に研修を受けている。内部勉強会でも介護スキルアップに努めている。外部研修は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険連絡協議会に加入しているが、オンラインの研修に参加する程度であり、他事業所との交流は現在はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にインテークを行い住環境等を把握。バックグラウンドを活用し、暫定プランを作成し職員間で共有し、安心できる生活環境作りに努めており、より良い生活に向けて信頼関係が構築できるよう支援している。管理者は1人1人に声をかけ意見の収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バックグラウンドを活用し、家族の意見を聞き、安心できる生活環境作りにつとめている。又、ご家族の生活背景も知り様々な問題を把握し信頼関係が深められるよう努力している。入居前に暫定ケアプランを作成し職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問にて情報収集し、家族との連携を行い今まで利用していたサービスの添書をもとに、本人の状況を把握している。入居判定会議を開いて問題点を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を大切に、信頼関係を築き、本人の能力を見極め、できる事出来ない事を把握し、その人の役割を見つけている。家事などして下さった時には感謝の意を示している。又、ご家族の希望に出来るだけ沿った支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしている。施設に来られた際は最近の様子を報告している。グループホームでの生活が分かる便りを送付している。何かあればすぐに連絡し連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグラウンドを活用し、本人の望むことの支援を行っている。居室には自宅で使用していた家具を持ち込んで頂くようにしている。行きつけの美容院等続けられるようケアプランにも記入し生活支援している。	家族・馴染みの友達・通りすがりの近所の方などと居心地の良い玄関でガラス越しに会話したり、笑顔で挨拶を交わし合ったりしている。オンラインは国内外や夜間を問わず、どんなに離れていても気軽に馴染みの人と関係を継続できる様に取り組んでいる。	身近な場で交流しやすい方と新しい世界を導ける様なご縁を提供できる施設づくりにチャレンジしてはいかがでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間を把握し、各自役割をもって頂き日頃の生活の中の行事やアクティビティでより良い関係が築けるように職員が間に入り会話や座席等を配慮し和みのある環境づくりをしている。居室に閉じこもらないように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も近況を尋ねるなど、近況を把握するよう努めている。退去された後も訪ねて来られるご家族が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で会話の内容、表情の変化・態度から本人の思いを把握するよう努め、気がついた事は個人記録に記入し職員間で共有している。	日頃のさりげない会話の中から汲み取ったものを、出来るだけ実現できる様に職員一同考え、実践している。意向の表現や実践が困難な場合は、さり気なく利用者の表情やしぐさ、言動で快不快を把握し、利用者本位になるように努め、家族に相談してから叶うように取り計らっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドや本人、ご家族、入居前のサービス事業者にこれまでの生活をおたずねする等の意見を聞き、体調や身体機能を把握し取り組んでいる。居室内に家族との写真や思い出品などを飾り馴ら安心して過ごせるような環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握を行うと共に1日の個々の心身の状況や言動を観察し、リズムに合った生活をして穏やかに過ごしていただけるよう努めている。お手伝い等していただいた時は記録に残している。一人ひとりできる事を見出しプランに沿った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種の職員やご家族にカンファレンスに参加して頂き意見を聞くと共に、本人や家族の希望を受け入れ、ケアプランに反映している。	入所時に作ったケアプランを一か月・三か月・六か月で見直している。家族や主治医・看護師などからの意見を参考にし、ケアプランに反映させている。担当職員が中心となり、モニタリングを実施し、状態の変化に応じて、個々の状況・状態に合わせたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた所は職員間で話し合い、連絡ノート医療ノートや申し送り・ミーティングで情報共有し、見直しを図っている。主治医・看護師・管理者とも連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の意向に配慮し必要に応じたサービスとなる様、職員間で話し合い多職種(地域包括・民生委員等)への相談なども行い、可能な限り実現している。まだ工夫が必要と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在は、コロナウイルス感染拡大の防止の為に、行っていないが、終息後は、地域のお寺・小学校・お祭り・文化祭等関りを再開し継続していく予定。小学校へは手紙のやり取りは行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員に、かかりつけ医・緊急搬送先をお聞きしており必要時は本人とご家族と相談し医療との連携を図っている。主治医一覧、緊急時搬送表を掲示している。	かかりつけ医は選択自由だが、入所時に協力医に転医される事もしばしばある。週に一度の往診時は、利用者の病状も含めて、何でも話し合える関係が構築されている。また、主治医の手品の披露や利用者との語り合いの場も作って頂いているので、信頼度が高い嬉しい受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンス・ユニットミーティングに看護師も参加しており、申し送りや医療ノートを活用し、看護・介護の連携をとっており、医療との連携もスムーズで適切な看護・介護を受けられるように援助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行う。入院中の経過を聞いており必要時は主治医・看護師・ケースワーカー等に様子を尋ねている。退院時にもグループホームで安楽な生活が送れるよう職員間で情報の共有を行い介護を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を元に説明し同意を得ている。入居後はその都度現状を説明し、ご家族・本人の意向を聞き、医療との連携を図っている。ヒヤリハットが出ればその日に話し合いを行い異常の早期発見に努めている。看取り時には他職種とご家族で頻回にカンファレンスを開き安心して過ごして頂けるように努める。看取りの研修も行っている。	看取りを行っていて、今年は2人を看取った。日頃からかかりつけ医としっかりとコミュニケーションがなされており、看取り期前には、医師から家族に説明をしている。『看取りは手間暇』それは、誰にでも訪れる死を受け入れがたくされている家族と心をついにしていく事でもあるのでは？との考えで、看取り研修とデスカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目につくところに置いている。勉強会を定期的に行い、緊急時に備えている。主治医一覧・緊急搬送表を掲示している。体調不良時は看護師・管理者・ご家族と連携をとり緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に消火訓練・地震訓練・避難訓練を行い、非常連絡網を活用している。訓練は入居者様全員参加で、日中想定や夜間想定等実際に即した訓練を行っている。居室入り口に入居者の歩行状態の把握がすぐできるような対策を行っている。	年3回、火災と地震の訓練を昼夜想定で実施。避難経路の再確認や変更など、意見交換しながら協力体制を築いている。消火設備の勉強会も実施している。また、備蓄も消費期限に合わせて普段の食事に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室でありプライバシーが守られている。トイレ介助等全てのサービス提供に対し本人の尊厳が保たれている。職員は常に入居者様を敬う気持ちを持ち、声かけや介助を行っている。接遇委員会があり全体会議等でも適宜伝えている。	一人一人持ち合わせている自尊心に、日々の関わりを積み重ねて職員間で情報共有しながら、利用者が気持ちよく生活できる様に支援している。利用者の前では送りしめない。入室時の声かけやノック、お風呂の順番を案内する時など、その人の『今の気持ち』に寄り添って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い否定せず傾聴に努めている。衣類の選択・嗜好品・外出等声かけを行い、自己決定できる方にはその都度説明し、意見を尊重し実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	バックグラウンドを活用し、本人の意見を聞きながらその日の体調や希望に沿った生活を援助している。日々のコミュニケーションで得られた情報を元に入居者様のニーズを見出しケアプランに繋げている。毎月ご自分で作成されたカレンダーを居室内に掲示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や衣類の選択等、自己決定できるよう声かけを行っている。その時は、「素敵ですね」等賛辞の言葉を一声お掛けするようにしている。清潔を保ち季節に合った服装の声かけをさせてもらうこともある。入浴の準備などご自分で可能な方ご自分でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好物を提供。月4回行事食があり季節の感じられるメニューにしている。食事の時間には音楽をかけ会話をしながらゆっくり召し上がって頂くよう雰囲気作りも大切にしよう心がけている。中庭で取れた実や畑の野菜で料理を楽しみながら旬の食材を召し上がって頂いている。	三食・おやつ全て手作り。盛り付けや準備や片付けは、利用者の手を借りている。行事食には、郷土料理を提供したり、利用者と収穫した琵琶・梅・木苺や野菜等の作物で、献立に華を添えたりしている。時には、モスバーガーや吉野家のテイクアウトで今風の団らんも再現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態にあった食事形態や飲水量、体重等を医療や管理栄養士と連携し対応している。希望のある方には居室に水筒を準備している。全入居者の飲水量を把握しており特別な指示のない方には飲水1000mlを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大切だと考えており、毎食後口腔ケアを本人の能力にあった援助で行っている。訪問歯科と契約しており、口腔ケアの方法の助言や定期的メンテナンスを行っている。健口体操やパタカラ体操を取り入れ機能低下予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に職員間で情報を共有し排泄能力が維持できるよう本人の能力にあった排泄ケアに取り組んでいる。出来るだけトイレでの排泄を目指している。ただパット使用量が増える現実もある。	個々の排泄パターンを把握し、利用者にあったケアを行っている。夜間もトイレ誘導を基本とし、機能の維持・改善に繋げているから、ポータブルトイレから卒業された方や紙パンツから布パンツに戻った方もいる。また、パットの使用方法の工夫で、自立支援と財布に優しいケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのみでなく牛乳・バナナ・飲水等をすすめたり毎日の飲水量を把握している。可能な限りレクリエーション等で体を動かしている。日々の排泄確認を行っている。医療との連携をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴で今までと同じ生活ができている。日中に希望される方や毎日入浴を希望される方も希望通り入浴して頂けるようにしている。車椅子の方も増えている為その方は希望に添えない事もある。	隔日に提供しているが、希望すれば毎日の入浴も可。開設当初から夜間入浴を継続して実施している。季節湯を提供したり、入浴の順番に配慮したりするなど、入浴が楽しくなる様に支援している。『前に人が入った様な感じを残さない』様に、掃除を徹底し、清潔を目指している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴の取組みや日中の活性化等を行い、安眠できるよう配慮している。主治医の指示を受け眠剤内服も対応し安眠に繋げている。日中に横になりたい方は希望を取り入れ、メリハリのある生活に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方録があり副作用の確認ができる。薬の内容についても職員間で話し合い医療との連携を図っている。変更があった場合が状態に変化がないか様子観察を行っている。内服時は声に出す事とダブルチェックを必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドや会話の中で本人の興味のあることを見出し、生き生きと生活できるよう本人の希望に沿った生活を援助している。誕生日会や行事等で人前が出る機会を設け張り合いに繋がっている。レク委員会があり毎月入居者と壁面作りや行事の小道具を一緒に作り季節感を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大防止の為、駐車場や近隣の散歩のみである。終息後は今までの活動が継続できるよう支援を行う。	日頃から利用者の希望に合わせて、ゴミ出しや散歩、買い物に出かけている。地域近隣の弁当を買って、敷地内の駐車場で青空昼食を催し、外気に触れることで楽しく健康な生活を導いている。花がたくさんある近所の家人と散歩がてらに言葉を交わしながら、花の下で昔話に花を咲かせていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望により対応し、安心した生活に繋げている。定期的にご家族に電話や手紙(年賀状)を書く等、連絡をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に優しい環境づくりが出来ている。カレンダーや壁面に写真、作品を展示し季節感が取り入れられている。廊下には椅子を置き途中で休憩できるよう配慮している。共用部分は、必要な時に合わせて照明を調節し過ごしやすい空間を作っている。	広くて明るく開放感がある居心地の良さの空間が広がる。共用のフロアやトイレには、利用者と摘んだ花がそっと飾られており、目を和ませると同時に散歩風景が蘇ってくる。壁面には、利用者が作成した季節の作品や利用者として過ごした懐かしい写真が毎月入れ替えて飾られ、利用者の穏やかな人生の軌跡が、季節とともに漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間に机や椅子などを置いており、仲の良い人同士がゆったりと生活できる様援助している。自然と居間につどっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い入れのある物や、ご家族の写真や手芸作品、今まで生活してきた家具を持ち込んでもらうようお願いしている。入居後も話の中で出てきたものを出来るだけ配置し安心して過ごして頂ける様工夫している。	全て東向きと南向きの居室で、神様に見守られ感がある。家族写真、手製の作品、メイクミラーや化粧品、ソファー、タンスなど、使い慣れた物や馴染みの物が、家族の想いと共にふんだんにレイアウトされ、居心地がよさそう。介護ベッドは、いよいよ必要になってからの心配りが整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名前は番号では無く、花や果物の名前にしており覚えやすい。トイレは表示し、解りやすいよう配慮している。1人1人の特技を生かし発揮する場を設けている。また出来ることは行えるような環境づくりを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203394		
法人名	有限会社ケアポート倉敷		
事業所名	グループホーム亀山 (花畑)		
所在地	岡山県倉敷市亀山773-1		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203394-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 7 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜間入浴は開設当初より現在も継続しており入居者様のQOLの向上につながっている。「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を理念に、毎年目標を定め取り組んでいる。今年度は「心に余裕を持って楽しく介護をしよう」夕食後に入浴の為日中のクラブ活動、レクリエーション・運動等が活性化されている。その他その方に合わせた活動も行っている。食事に力を入れており月に4日行事食があり、地産地消で季節感を感じられるメニューになっている。職員間のコミュニケーションが取れており、定着力もよく働きやすい環境となっている。職員の研修に努め認知症ケア等のスキルアップに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太陽神である天照大御神に見守られるように、東向きと南向きに居室を設け、スケールの大きな施設を形成している。理念は、全職員が周知し、職員の礎として18年の軌跡で物語ってきたからこそ、利用者に関わり方に光を射し、職員の充実した源となり、介護福祉の姿勢に表れている。「前の人が入っているお風呂で嫌な気持ちになる」という利用者からの声から清潔を目指し、掃除に徹底し、すべての環境にも「一隅を照らす」の如く隅々まで対応している。人との関係も気配り、心配りで照らすように、施設長をリーダーとして、和を持って、オーナーが語る「継続できる体制」に導いている。家庭的な心を絆として企業化されたゆとりがあるこの施設は、「礼で始まり、礼で終わる。」その武士道の精神から、大きな笑顔を育み、継続は力なりの言葉が似合うが、その裏に目に見えない苦労の甲斐も伺われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を掲げており、全体会議などで適宜伝えている。ホーム内では「風通しの良いグループホーム」を目指しており毎年年間目標を掲げている。今年の「心に余裕を持って楽しく介護をしよう」を全職員で共有し理念の実践が出来るようにしている。	各ユニットの掲示板に理念を掲げ、実践できる様に取り組んでいる。年間の研修プログラムに接遇研修があり、各部署のリーダー的存在の人が講師役になり、職員全体で理念に沿った目標を考え、職員用トイレに掲示している。半年毎に振り返り、反省を行っている。	理念の通りに実践しているので、誰もが見える場所に大きく掲げて、今以上に地域に知って頂ける様にしていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大防止の為今までのような地域との交流は持ていないが、中庭や駐車場を散歩している。近隣の帯江小学校と手紙のやり取りを行っている。感染拡大が終息後は以前のように交流していく予定。	お気に入りの散歩コースをコロナ禍でも続けている。また、オンライン面談を推進した事で、国内はもとより、海外の家族とも気軽に面会できる環境を構築し、柔軟に対応している。小学生と手紙のやり取りも楽しい行事。法人で空手道部があり、職員が地域の子供達に教えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外部・内部での勉強会を行っている。グループ全体の便りを作成し地域の有識者へ配布している。2か月に一度近隣の清掃活動の為にクリーンアップ作戦を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、愛育委員、地域包括支援センター、家族会の参加で開催、又は書面会議を行っている。以前は全家族に開催の通知を行っていた。半年に一度はデイサービスとの合同開催なのでより広く意見を聞くことが出来る。会議資料は来訪者閲覧の為玄関に設置している。	隔月に開催し、面談と書面の形式でコロナ禍スタイルをとっている。書面スタイルを取った事で、参加メンバー同士の意見も知りたいとの意向から議事録を郵送するようになった。愛育委員が、おやつのリポーターを紹介してくれ、豊富なバリエーションとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況の報告を毎月行っている。制度やサービスの事で解らない所や確認事項等は随時担当者に相談、確認しサービス提供を行っている。	施設長が中心となり、いつでも連絡・相談できる関係にあり、出向いて話をするくらい市と連携を深く図っている。市から研修案内などもあり、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会があり、どのようなことが拘束にあたるのか勉強会や全体会議で伝え、共通の認識でケアを行っている。勉強会の担当者は毎年変更し担当職員も深く知識を身につけている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。運営推進会議の日に委員会を開催し内容を全職員に周知している。	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催しており、職員が講師となって勉強会を実施している。ケアの現場で、これは拘束の予備軍？と思わしきときは、その場の雰囲気配慮しながら、スタッフの個性に合わせてケアの意味や意義をよく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、どのような事が虐待に当たるのか、全体会議等で伝えている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。事故の内容についても虐待にあたる事例はないか話し合いで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者はもちろん事業所内でも勉強会を開催し制度について勉強している。家族の相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書を元に詳しく説明し納得して頂き、同意を得ている。改正時にも書面と口頭にて説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書に苦情の窓口を明記し説明している。管理者のみでなく職員は面会時や家族会総会、運営推進会議、意見箱などで頂いた意見は共有し反映している。	オンラインも含めて、家族との面会や家族アンケートを続け、意見や要望を聞き取っている。利用者からは、日常生活の何気ない会話からも聞き取れるように、親しみを持って接している。コロナ禍でも初詣に行きたいとの要望に、施設内に神社と賽銭を作り、手を合わせる機会を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け全員で意見交換を行い決定している。管理者は年に一度全職員と面談し意見を聞いて反映している。その他は、代表者に報告し反映させている。	どんなことも気軽に話せるゲートキーパー役が役割に関係なくいて、職員同士、風通しが良い。コロナ応援プロジェクトとして、地元企業の取引を広げ、弁当やパンを職員の食事にイレギュラーに提供したり、職員同士で好意的に勤務を調整したりして休みやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力や働きやすい環境を配慮している。本人の能力が引き出せるように配慮している。心身の状況を把握し個々に合った就業環境で就業している。就業規則に沿って表彰制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を利用し職員の昇格等モチベーションアップにつなげている。新人に対してプリセプター制度を利用し実際のケアの中で指導を行っている。種別や役職別に全職員が定期的に研修を受けている。内部勉強会でも介護スキルアップに努めている。外部研修は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険連絡協議会に加入しているが、オンラインの研修に参加する程度であり、他事業所との交流は現在はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にインテークを行い住環境等を把握。バックグラウンドを活用し、暫定プランを作成し職員間で共有し、安心できる生活環境作りに努めており、より良い生活に向けて信頼関係が構築できるよう支援している。管理者は1人1人に声をかけ意見の収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バックグラウンドを活用し、家族の意見を聞き、安心できる生活環境作りにつとめている。又、ご家族の生活背景も知り様々な問題を把握し信頼関係が深められるよう努力している。入居前に暫定ケアプランを作成し職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問にて情報収集し、家族との連携を行い今まで利用していたサービスの添書をもとに、本人の状況を把握している。入居判定会議を開いて問題点を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を大切に、信頼関係を築き、本人の能力を見極め、できる事出来ない事を把握し、その人の役割を見つけている。家事などして下さった時には感謝の意を示している。又、ご家族の希望に出来るだけ沿った支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしている。施設に来られた際は最近の様子を報告している。グループホームでの生活が分かる便りを送付している。何かあればすぐに連絡し連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグラウンドを活用し、本人の望むことの支援を行っている。居室には自宅で使用していた家具を持ち込んで頂くようにしている。行きつけの美容院等続けられるようケアプランにも記入し生活支援している。	家族・馴染みの友達・通りすがりの近所の方などと居心地の良い玄関でガラス越しに会話したり、笑顔で挨拶を交わし合ったりしている。オンラインは国内外や夜間を問わず、どんなに離れていても気軽に馴染みの人と関係を継続できる様に取り組んでいる。	身近な場で交流しやすい方と新しい世界を導ける様なご縁を提供できる施設づくりにチャレンジしてはいかがでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間を把握し、各自役割をもって頂き日頃の生活の中の行事やアクティビティでより良い関係が築けるように職員が間に入り会話や座席等を配慮し和みのある環境づくりをしている。居室に閉じこもらないように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も近況を尋ねるなど、近況を把握するよう努めている。退去された後も訪ねて来られるご家族が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で会話の内容、表情の変化・態度から本人の思いを把握するよう努め、気がついた事は個人記録に記入し職員間で共有している。	日頃のさりげない会話の中から汲み取ったものを、出来るだけ実現できる様に職員一同考え、実践している。意向の表現や実践が困難な場合は、さり気なく利用者の表情やしぐさ、言動で快不快を把握し、利用者本位になるように努め、家族に相談してから叶うように取り計らっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドや本人、ご家族、入居前のサービス事業者にこれまでの生活をおたずねする等の意見を聞き、体調や身体機能を把握し取り組んでいる。居室内に家族との写真や思い出品などを飾り馴ら安心して過ごせるような環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握を行うと共に1日の個々の心身の状況や言動を観察し、リズムに合った生活をして穏やかに過ごしていただけるよう努めている。お手伝い等していただいた時は記録に残している。一人ひとりできる事を見出しプランに沿った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種の職員やご家族にカンファレンスに参加して頂き意見を聞くと共に、本人や家族の希望を受け入れ、ケアプランに反映している。	入所時に作ったケアプランを一か月・三か月・六か月で見直している。家族や主治医・看護師などからの意見を参考にし、ケアプランに反映させている。担当職員が中心となり、モニタリングを実施し、状態の変化に応じて、個々の状況・状態に合わせたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた所は職員間で話し合い、連絡ノート医療ノートや申し送り・ミーティングで情報共有し、見直しを図っている。主治医・看護師・管理者とも連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の意向に配慮し必要に応じたサービスとなる様、職員間で話し合い多職種(地域包括・民生委員等)への相談なども行い、可能な限り実現している。まだ工夫が必要と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在は、コロナウイルス感染拡大の防止の為に、行っていないが、終息後は、地域のお寺・小学校・お祭り・文化祭等関りを再開し継続していく予定。小学校へは手紙のやり取りは行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員に、かかりつけ医・緊急搬送先をお聞きしており必要時は本人とご家族と相談し医療との連携を図っている。主治医一覧、緊急時搬送表を掲示している。	かかりつけ医は選択自由だが、入所時に協力医に転医される事もしばしばある。週に一度の往診時は、利用者の病状も含めて、何でも話し合える関係が構築されている。また、主治医の手品の披露や利用者との語り合いの場も作って頂いているので、信頼度が高い嬉しい受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンス・ユニットミーティングに看護師も参加しており、申し送りや医療ノートを活用し、看護・介護の連携をとっており、医療との連携もスムーズで適切な看護・介護を受けられるように援助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行う。入院中の経過を聞いており必要時は主治医・看護師・ケースワーカー等に様子を尋ねている。退院時にもグループホームで安楽な生活が送れるよう職員間で情報の共有を行い介護を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を元に説明し同意を得ている。入居後はその都度現状を説明し、ご家族・本人の意向を聞き、医療との連携を図っている。ヒヤリハットが出ればその日に話し合いを行い異常の早期発見に努めている。看取り時には他職種とご家族で頻回にカンファレンスを開き安心して過ごして頂けるように努める。看取りの研修も行っている。	看取りを行っていて、今年は2人を看取った。日頃からかかりつけ医としっかりとコミュニケーションがなされており、看取り期前には、医師から家族に説明をしている。『看取りは手間暇』それは、誰にでも訪れる死を受け入れがたくされている家族と心をつなげていく事でもあるのでは？との考えで、看取り研修とデスカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目につくところに置いている。勉強会を定期的に行い、緊急時に備えている。主治医一覧・緊急搬送表を掲示している。体調不良時は看護師・管理者・ご家族と連携をとり緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に消火訓練・地震訓練・避難訓練を行い、非常連絡網を活用している。訓練は入居者様全員参加で、日中想定や夜間想定等実際に即した訓練を行っている。居室入り口に入居者の歩行状態の把握がすぐできるような対策を行っている。	年3回、火災と地震の訓練を昼夜想定で実施。避難経路の再確認や変更など、意見交換しながら協力体制を築いている。消火設備の勉強会も実施している。また、備蓄も消費期限に合わせて普段の食事に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室でありプライバシーが守られている。トイレ介助等全てのサービス提供に対し本人の尊厳が保たれている。職員は常に入居者様を敬う気持ちを持ち、声かけや介助を行っている。接遇委員会があり全体会議等でも適宜伝えている。	一人一人持ち合わせている自尊心に、日々の関わりを積み重ねて職員間で情報共有しながら、利用者が気持ちよく生活できる様に支援している。利用者の前では送りしめない。入室時の声かけやノック、お風呂の順番を案内する時など、その人の『今の気持ち』に寄り添って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い否定せず傾聴に努めている。衣類の選択・嗜好品・外出等声かけを行い、自己決定できる方にはその都度説明し、意見を尊重し実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	バックグラウンドを活用し、本人の意見を聞きながらその日の体調や希望に沿った生活を援助している。日々のコミュニケーションで得られた情報を元に入居者様のニーズを見出しケアプランに繋げている。毎月ご自分で作成されたカレンダーを居室内に掲示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や衣類の選択等、自己決定できるよう声かけを行っている。その時は、「素敵ですね」等賛辞の言葉を一声お掛けするようにしている。清潔を保ち季節に合った服装の声かけをさせてもらうこともある。入浴の準備などご自分で可能な方ご自分でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好物を提供。月4回行事食があり季節の感じられるメニューにしている。食事の時間には音楽をかけ会話をしながらゆっくり召し上がって頂くよう雰囲気作りも大切にしよう心がけている。中庭で取れた実や畑の野菜で料理を楽しみながら旬の食材を召し上がって頂いている。	三食・おやつ全て手作り。盛り付けや準備や片付けは、利用者の手を借りている。行事食には、郷土料理を提供したり、利用者と収穫した琵琶・梅・木苺や野菜等の作物で、献立に華を添えたりしている。時には、モスバーガーや吉野家のテイクアウトで今風の団らんも再現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態にあった食事形態や飲水量、体重等を医療や管理栄養士と連携し対応している。希望のある方には居室に水筒を準備している。全入居者の飲水量を把握しており特別な指示のない方には飲水1000mlを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大切だと考えており、毎食後口腔ケアを本人の能力にあった援助で行っている。訪問歯科と契約しており、口腔ケアの方法の助言や定期的メンテナンスを行っている。健口体操やパタカラ体操を取り入れ機能低下予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に職員間で情報を共有し排泄能力が維持できるよう本人の能力にあった排泄ケアに取り組んでいる。出来るだけトイレでの排泄を目指している。ただパット使用量が増える現実もある。	個々の排泄パターンを把握し、利用者にあったケアを行っている。夜間もトイレ誘導を基本とし、機能の維持・改善に繋げているから、ポータブルトイレから卒業された方や紙パンツから布パンツに戻った方もいる。また、パットの使用方法の工夫で、自立支援と財布に優しいケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのみでなく牛乳・バナナ・飲水等をすすめたり毎日の飲水量を把握している。可能な限りレクリエーション等で体を動かしている。日々の排泄確認を行っている。医療との連携をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴で今までと同じ生活ができている。日中に希望される方や毎日入浴を希望される方も希望通り入浴して頂けるようにしている。車椅子の方も増えている為その方は希望に添えない事もある。	隔日に提供しているが、希望すれば毎日の入浴も可。開設当初から夜間入浴を継続して実施している。季節湯を提供したり、入浴の順番に配慮したりするなど、入浴が楽しくなる様に支援している。『前に人が入った様な感じを残さない』様に、掃除を徹底し、清潔を目指している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴の取組みや日中の活性化等を行い、安眠できるよう配慮している。主治医の指示を受け眠剤内服も対応し安眠に繋げている。日中に横になりたい方は希望を取り入れ、メリハリのある生活に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方録があり副作用の確認ができる。薬の内容についても職員間で話し合い医療との連携を図っている。変更があった場合が状態に変化がないか様子観察を行っている。内服時は声に出す事とダブルチェックを必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドや会話の中で本人の興味のあることを見出し、生き生きと生活できるよう本人の希望に沿った生活を援助している。誕生日会や行事等で人前になる機会を設け張り合いに繋がっている。レク委員会があり毎月入居者と壁面作りや行事の小道具を一緒に作り季節感を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大防止の為、駐車場や近隣の散歩のみである。終息後は今までの活動が継続できるよう支援を行う。	日頃から利用者の希望に合わせて、ゴミ出しや散歩、買い物に出かけている。地域近隣の弁当を買って、敷地内の駐車場で青空昼食を催し、外気に触れることで楽しく健康な生活を導いている。花がたくさんある近所の家人と散歩がてらに言葉を交わしながら、花の下で昔話に花を咲かせていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望により対応し、安心した生活に繋げている。定期的にご家族に電話や手紙(年賀状)を書く等、連絡をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に優しい環境づくりが出来ている。カレンダーや壁面に写真、作品を展示し季節感が取り入れられている。廊下には椅子を置き途中で休憩できるよう配慮している。共用部分は、必要な時に合わせて照明を調節し過ごしやすい空間を作っている。	広くて明るく開放感がある居心地の良さの空間が広がる。共用のフロアやトイレには、利用者と摘んだ花がそっと飾られており、目を和ませると同時に散歩風景が蘇ってくる。壁面には、利用者が作成した季節の作品や利用者で過ごした懐かしい写真が毎月入れ替えて飾られ、利用者の穏やかな人生の軌跡が、季節とともに漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間に机や椅子などを置いており、仲の良い人同士がゆったりと生活できる様援助している。自然と居間につどっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い入れのある物や、ご家族の写真や手芸作品、今まで生活してきた家具を持ち込んでもらうようお願いしている。入居後も話の中で出てきたものを出来るだけ配置し安心して過ごして頂ける様工夫している。	全て東向きと南向きの居室で、神様に見守られ感がある。家族写真、手製の作品、メイクミラーや化粧品、ソファー、タンスなど、使い慣れた物や馴染みの物が、家族の想いと共にふんだんにレイアウトされ、居心地がよさそう。介護ベッドは、いよいよ必要になってからの心配りが整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名前は番号では無く、花や果物の名前にしており覚えやすい。トイレは表示し、解りやすいよう配慮している。1人1人の特技を生かし発揮する場を設けている。また出来ることは行えるような環境づくりを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203394		
法人名	有限会社ケアポート倉敷		
事業所名	グループホーム亀山 (果物畑)		
所在地	岡山県倉敷市亀山773-1		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203394-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 7 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜間入浴は開設当初より現在も継続しており入居者様のQOLの向上につながっている。「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を理念に、毎年目標を定め取り組んでいる。今年度は「心に余裕を持って楽しく介護しよう」夕食後に入浴の為日中のクラブ活動、レクリエーション・運動等が活性化されている。その他その方に合わせた活動も行っている。食事に力を入れており月に4日行事食があり、地産地消で季節感を感じられるメニューになっている。職員間のコミュニケーションが取れており、定着力もよく働きやすい環境となっている。職員の研修に努め認知症ケア等のスキルアップに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太陽神である天照大御神に見守られるように、東向きと南向きに居室を設け、スケールの大きな施設を形成している。理念は、全職員が周知し、職員の礎として18年の軌跡で物語ってきたからこそ、利用者に関わり方に光を射し、職員の充実した源となり、介護福祉の姿勢に表れている。「前の人が入っているお風呂で嫌な気持ちになる」という利用者からの声から清潔を目指し、掃除に徹底し、すべての環境にも「一隅を照らす」の如く隅々まで対応している。人との関係も気配り、心配りで照らすように、施設長をリーダーとして、和を持って、オーナーが語る「継続できる体制」に導いている。家庭的な心を絆として企業化されたゆとりがあるこの施設は、「礼で始まり、礼で終わる。」その武士道の精神から、大きな笑顔を育み、継続は力なりの言葉が似合うが、その裏に目に見えない苦労の甲斐も伺われた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「誠心誠意・心のケア・親切やさしさ」を掲げており、全体会議などで適宜伝えている。ホーム内では「風通しの良いグループホーム」を目指しており毎年年間目標を掲げている。今年の「心に余裕を持って楽しく介護をしよう」を全職員で共有し理念の実践が出来るようにしている。	各ユニットの掲示板に理念を掲げ、実践できる様に取り組んでいる。年間の研修プログラムに接遇研修があり、各部署のリーダー的存在の人が講師役になり、職員全体で理念に沿った目標を考え、職員用トイレに掲示している。半年毎に振り返り、反省を行っている。	理念の通りに実践しているので、誰もが見える場所に大きく掲げて、今以上に地域に知って頂ける様にしていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大防止の為今までのような地域との交流は持ていないが、中庭や駐車場を散歩している。近隣の帯江小学校と手紙のやり取りを行っている。感染拡大が終息後は以前のように交流していく予定。	お気に入りの散歩コースをコロナ禍でも続けている。また、オンライン面談を推進した事で、国内はもとより、海外の家族とも気軽に面会できる環境を構築し、柔軟に対応している。小学生と手紙のやり取りも楽しい行事。法人で空手道部があり、職員が地域の子供達に教えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外部・内部での勉強会を行っている。グループ全体の便りを作成し地域の有識者へ配布している。2か月に一度近隣の清掃活動の為にクリーンアップ作戦を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、愛育委員、地域包括支援センター、家族会の参加で開催、又は書面会議を行っている。以前は全家族に開催の通知を行っていた。半年に一度はデイサービスとの合同開催なのでより広く意見を聞くことが出来る。会議資料は来訪者閲覧の為玄関に設置している。	隔月に開催し、面談と書面の形式でコロナ禍スタイルをとっている。書面スタイルを取った事で、参加メンバー同士の意見も知りたいとの意向から議事録を郵送するようになった。愛育委員が、おやつのリポーターを紹介してくれ、豊富なバリエーションとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告を毎月行っている。制度やサービスの事で解らない所や確認事項等は随時担当者に相談、確認しサービス提供を行っている。	施設長が中心となり、いつでも連絡・相談できる関係にあり、出向いて話をするくらい市と連携を深く図っている。市から研修案内などもあり、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会があり、どのようなことが拘束にあたるのか勉強会や全体会議で伝え、共通の認識でケアを行っている。勉強会の担当者は毎年変更し担当職員も深く知識を身につけている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。運営推進会議の日に委員会を開催し内容を全職員に周知している。	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催しており、職員が講師となって勉強会を実施している。ケアの現場で、これは拘束の予備軍？と思わしきときは、その場の雰囲気配慮しながら、スタッフの個性に合わせてケアの意味や意義をよく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、どのような事が虐待に当たるのか、全体会議等で伝えている。新人職員にはマニュアルを渡し説明している。事故の内容についても虐待にあたる事例はないか話し合いで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者はもちろん事業所内でも勉強会を開催し制度について勉強している。家族の相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書を元に詳しく説明し納得して頂き、同意を得ている。改正時にも書面と口頭にて説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書に苦情の窓口を明記し説明している。管理者のみでなく職員は面会時や家族会総会、運営推進会議、意見箱などで頂いた意見は共有し反映している。	オンラインも含めて、家族との面会や家族アンケートを続け、意見や要望を聞き取っている。利用者からは、日常生活の何気ない会話からも聞き取れるように、親しみを持って接している。コロナ禍でも初詣に行きたいとの要望に、施設内に神社と賽銭を作り、手を合わせる機会を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け全員で意見交換を行い決定している。管理者は年に一度全職員と面談し意見を聞いて反映している。その他は、代表者に報告し反映させている。	どんなことも気軽に話せるゲートキーパー役が役割に関係なくいて、職員同士、風通しが良い。コロナ応援プロジェクトとして、地元企業の取引を広げ、弁当やパンを職員の食事にイレギュラーに提供したり、職員同士で好意的に勤務を調整したりして休みやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力や働きやすい環境を配慮している。本人の能力が引き出せるように配慮している。心身の状況を把握し個々に合った就業環境で就業している。就業規則に沿って表彰制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を利用し職員の昇格等モチベーションアップにつなげている。新人に対してプリセプター制度を利用し実際のケアの中で指導を行っている。種別や役職別に全職員が定期的に研修を受けている。内部勉強会でも介護スキルアップに努めている。外部研修は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険連絡協議会に加入しているが、オンラインの研修に参加する程度であり、他事業所との交流は現在はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にインテークを行い住環境等を把握。バックグラウンドを活用し、暫定プランを作成し職員間で共有し、安心できる生活環境作りに努めており、より良い生活に向けて信頼関係が構築できるよう支援している。管理者は1人1人に声をかけ意見の収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バックグラウンドを活用し、家族の意見を聞き、安心できる生活環境作りにつとめている。又、ご家族の生活背景も知り様々な問題を把握し信頼関係が深められるよう努力している。入居前に暫定ケアプランを作成し職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問にて情報収集し、家族との連携を行い今まで利用していたサービスの添書をもとに、本人の状況を把握している。入居判定会議を開いて問題点を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を大切に、信頼関係を築き、本人の能力を見極め、できる事出来ない事を把握し、その人の役割を見つけている。家事などして下さった時には感謝の意を示している。又、ご家族の希望に出来るだけ沿った支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしている。施設に来られた際は最近の様子を報告している。グループホームでの生活が分かる便りを送付している。何かあればすぐに連絡し連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バックグラウンドを活用し、本人の望むことの支援を行っている。居室には自宅で使用していた家具を持ち込んで頂くようにしている。行きつけの美容院等続けられるようケアプランにも記入し生活支援している。	家族・馴染みの友達・通りすがりの近所の方などと居心地の良い玄関でガラス越しに会話したり、笑顔で挨拶を交わし合ったりしている。オンラインは国内外や夜間を問わず、どんなに離れていても気軽に馴染みの人と関係を継続できる様に取り組んでいる。	身近な場で交流しやすい方と新しい世界を導ける様なご縁を提供できる施設づくりにチャレンジしてはいかがでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間を把握し、各自役割をもって頂き日頃の生活の中の行事やアクティビティでより良い関係が築けるように職員が間に入り会話や座席等を配慮し和みのある環境づくりをしている。居室に閉じこもらないように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も近況を尋ねるなど、近況を把握するよう努めている。退去された後も訪ねて来られるご家族が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で会話の内容、表情の変化・態度から本人の思いを把握するよう努め、気がついた事は個人記録に記入し職員間で共有している。	日頃のさりげない会話の中から汲み取ったものを、出来るだけ実現できる様に職員一同考え、実践している。意向の表現や実践が困難な場合は、さり気なく利用者の表情やしぐさ、言動で快不快を把握し、利用者本位になるように努め、家族に相談してから叶うように取り計らっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドや本人、ご家族、入居前のサービス事業者にこれまでの生活をおたずねする等の意見を聞き、体調や身体機能を把握し取り組んでいる。居室内に家族との写真や思い出品などを飾り馴ら安心して過ごせるような環境づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握を行うと共に1日の個々の心身の状況や言動を観察し、リズムに合った生活をして穏やかに過ごしていただけるよう努めている。お手伝い等していただいた時は記録に残している。一人ひとりできる事を見出しプランに沿った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	多職種の職員やご家族にカンファレンスに参加して頂き意見を聞くと共に、本人や家族の希望を受け入れ、ケアプランに反映している。	入所時に作ったケアプランを一か月・三か月・六か月で見直している。家族や主治医・看護師などからの意見を参考にし、ケアプランに反映させている。担当職員が中心となり、モニタリングを実施し、状態の変化に応じて、個々の状況・状態に合わせたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた所は職員間で話し合い、連絡ノート医療ノートや申し送り・ミーティングで情報共有し、見直しを図っている。主治医・看護師・管理者とも連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の意向に配慮し必要に応じたサービスとなる様、職員間で話し合い多職種(地域包括・民生委員等)への相談なども行い、可能な限り実現している。まだ工夫が必要と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在は、コロナウイルス感染拡大の防止の為に、行っていないが、終息後は、地域のお寺・小学校・お祭り・文化祭等関りを再開し継続していく予定。小学校へは手紙のやり取りは行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員に、かかりつけ医・緊急搬送先をお聞きしており必要時は本人とご家族と相談し医療との連携を図っている。主治医一覧、緊急時搬送表を掲示している。	かかりつけ医は選択自由だが、入所時に協力医に転医される事もしばしばある。週に一度の往診時は、利用者の病状も含めて、何でも話し合える関係が構築されている。また、主治医の手品の披露や利用者との語り合いの場も作って頂いているので、信頼度が高い嬉しい受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンス・ユニットミーティングに看護師も参加しており、申し送りや医療ノートを活用し、看護・介護の連携をとっており、医療との連携もスムーズで適切な看護・介護を受けられるように援助している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行う。入院中の経過を聞いており必要時は主治医・看護師・ケースワーカー等に様子を尋ねている。退院時にもグループホームで安楽な生活が送れるよう職員間で情報の共有を行い介護を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を元に説明し同意を得ている。入居後はその都度現状を説明し、ご家族・本人の意向を聞き、医療との連携を図っている。ヒヤリハットが出ればその日に話し合いを行い異常の早期発見に努めている。看取り時には他職種とご家族で頻回にカンファレンスを開き安心して過ごして頂けるように努める。看取りの研修も行っている。	看取りを行っていて、今年は2人を看取った。日頃からかかりつけ医としっかりとコミュニケーションがなされており、看取り期前には、医師から家族に説明をしている。『看取りは手間暇』それは、誰にでも訪れる死を受け入れがたくされている家族と心をつなげていく事でもあるのでは？との考えで、看取り研修とデスカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目につくところに置いている。勉強会を定期的に行い、緊急時に備えている。主治医一覧・緊急搬送表を掲示している。体調不良時は看護師・管理者・ご家族と連携をとり緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に消火訓練・地震訓練・避難訓練を行い、非常連絡網を活用している。訓練は入居者様全員参加で、日中想定や夜間想定等実際に即した訓練を行っている。居室入り口に入居者の歩行状態の把握がすぐできるような対策を行っている。	年3回、火災と地震の訓練を昼夜想定で実施。避難経路の再確認や変更など、意見交換しながら協力体制を築いている。消火設備の勉強会も実施している。また、備蓄も消費期限に合わせて普段の食事に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室でありプライバシーが守られている。トイレ介助等全てのサービス提供に対し本人の尊厳が保たれている。職員は常に入居者様を敬う気持ちを持ち、声かけや介助を行っている。接遇委員会があり全体会議等でも適宜伝えている。	一人一人持ち合わせている自尊心に、日々の関わりを積み重ねて職員間で情報共有しながら、利用者が気持ちよく生活できる様に支援している。利用者の前では送りしめない。入室時の声かけやノック、お風呂の順番を案内する時など、その人の『今の気持ち』に寄り添って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い否定せず傾聴に努めている。衣類の選択・嗜好品・外出等声かけを行い、自己決定できる方にはその都度説明し、意見を尊重し実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	バックグラウンドを活用し、本人の意見を聞きながらその日の体調や希望に沿った生活を援助している。日々のコミュニケーションで得られた情報を元に入居者様のニーズを見出しケアプランに繋げている。毎月ご自分で作成されたカレンダーを居室内に掲示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や衣類の選択等、自己決定できるよう声かけを行っている。その時は、「素敵ですね」等賛辞の言葉を一声お掛けするようにしている。清潔を保ち季節に合った服装の声かけをさせてもらうこともある。入浴の準備などご自分で可能な方ご自分でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好物を提供。月4回行事食があり季節の感じられるメニューにしている。食事の時間には音楽をかけ会話をしながらゆっくり召し上がって頂くよう雰囲気作りも大切にしよう心がけている。中庭で取れた実や畑の野菜で料理を楽しみながら旬の食材を召し上がって頂いている。	三食・おやつ全て手作り。盛り付けや準備や片付けは、利用者の手を借りている。行事食には、郷土料理を提供したり、利用者と収穫した琵琶・梅・木苺や野菜等の作物で、献立に華を添えたりしている。時には、モスバーガーや吉野家のテイクアウトで今風の団らんも再現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態にあった食事形態や飲水量、体重等を医療や管理栄養士と連携し対応している。希望のある方には居室に水筒を準備している。全入居者の飲水量を把握しており特別な指示のない方には飲水1000mlを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大切だと考えており、毎食後口腔ケアを本人の能力にあった援助で行っている。訪問歯科と契約しており、口腔ケアの方法の助言や定期的メンテナンスを行っている。健口体操やパタカラ体操を取り入れ機能低下予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に職員間で情報を共有し排泄能力が維持できるよう本人の能力にあった排泄ケアに取り組んでいる。出来るだけトイレでの排泄を目指している。ただパット使用量が増える現実もある。	個々の排泄パターンを把握し、利用者にあったケアを行っている。夜間もトイレ誘導を基本とし、機能の維持・改善に繋げているから、ポータブルトイレから卒業された方や紙パンツから布パンツに戻った方もいる。また、パットの使用方法の工夫で、自立支援と財布に優しいケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのみでなく牛乳・バナナ・飲水等をすすめたり毎日の飲水量を把握している。可能な限りレクリエーション等で体を動かしている。日々の排泄確認を行っている。医療との連携をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴で今までと同じ生活ができている。日中に希望される方や毎日入浴を希望される方も希望通り入浴して頂けるようにしている。車椅子の方も増えている為その方は希望に添えない事もある。	隔日に提供しているが、希望すれば毎日の入浴も可。開設当初から夜間入浴を継続して実施している。季節湯を提供したり、入浴の順番に配慮したりするなど、入浴が楽しくなる様に支援している。『前に人が入った様な感じを残さない』様に、掃除を徹底し、清潔を目指している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴の取組みや日中の活性化等を行い、安眠できるよう配慮している。主治医の指示を受け眠剤内服も対応し安眠に繋げている。日中に横になりたい方は希望を取り入れ、メリハリのある生活に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方録があり副作用の確認ができる。薬の内容についても職員間で話し合い医療との連携を図っている。変更があった場合が状態に変化がないか様子観察を行っている。内服時は声に出す事とダブルチェックを必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドや会話の中で本人の興味のあることを見出し、生き生きと生活できるよう本人の希望に沿った生活を援助している。誕生日会や行事等で人前になる機会を設け張り合いに繋がっている。レク委員会があり毎月入居者と壁面作りや行事の小道具を一緒に作り季節感を感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染拡大防止の為、駐車場や近隣の散歩のみである。終息後は今までの活動が継続できるよう支援を行う。	日頃から利用者の希望に合わせて、ゴミ出しや散歩、買い物に出かけている。地域近隣の弁当を買って、敷地内の駐車場で青空昼食を催し、外気に触れることで楽しく健康な生活を導いている。花がたくさんある近所の家人と散歩がてらに言葉を交わしながら、花の下で昔話に花を咲かせていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望により対応し、安心した生活に繋げている。定期的にご家族に電話や手紙(年賀状)を書く等、連絡をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に優しい環境づくりが出来ている。カレンダーや壁面に写真、作品を展示し季節感が取り入れられている。廊下には椅子を置き途中で休憩できるよう配慮している。共用部分は、必要な時に合わせて照明を調節し過ごしやすい空間を作っている。	広くて明るく開放感がある居心地の良さの空間が広がる。共用のフロアやトイレには、利用者と摘んだ花がそっと飾られており、目を和ませると同時に散歩風景が蘇ってくる。壁面には、利用者が作成した季節の作品や利用者で過ごした懐かしい写真が毎月入れ替えて飾られ、利用者の穏やかな人生の軌跡が、季節とともに漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間に机や椅子などを置いており、仲の良い人同士がゆったりと生活できる様援助している。自然と居間につどっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い入れのある物や、ご家族の写真や手芸作品、今まで生活してきた家具を持ち込んでもらうようお願いしている。入居後も話の中で出てきたものを出来るだけ配置し安心して過ごして頂ける様工夫している。	全て東向きと南向きの居室で、神様に見守られ感がある。家族写真、手製の作品、メイクミラーや化粧品、ソファー、タンスなど、使い慣れた物や馴染みの物が、家族の想いと共にふんだんにレイアウトされ、居心地がよさそう。介護ベッドは、いよいよ必要になってからの心配りが整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名前は番号では無く、花や果物の名前にしており覚えやすい。トイレは表示し、解りやすいよう配慮している。1人1人の特技を生かし発揮する場を設けている。また出来ることは行えるような環境づくりを行っている。		